

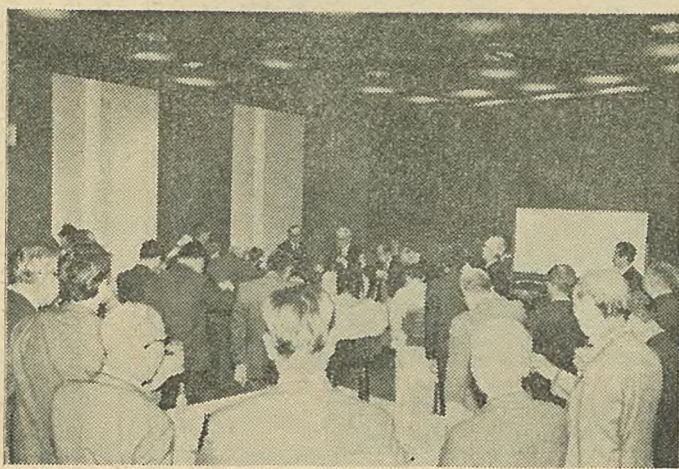
# 俳句文学館

発行所  
社団法人  
俳人協会  
東京都新宿区  
百人町3-28-10  
郵便番号160  
電話(03)367-6621  
(代)  
発行人 草間時彦  
定価 100円(送料別)  
(年 1,000円)  
(送料 300円)  
振替口座東京  
6-273番

## 和かに賀詞交換会

### 新春祝い飲み、語る

1月6日 花添えた女流会員の手料理  
協会で



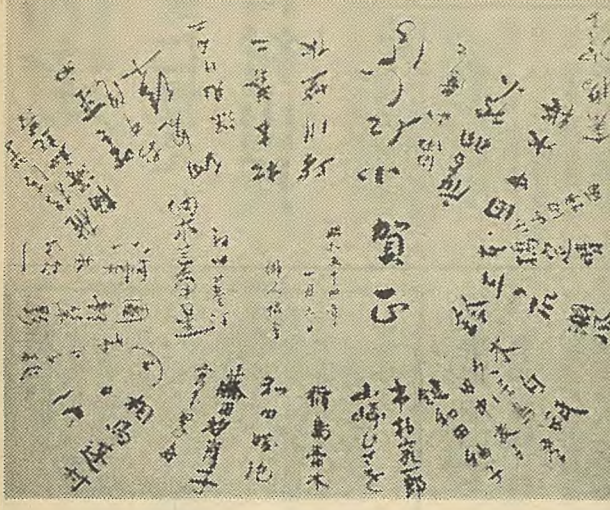
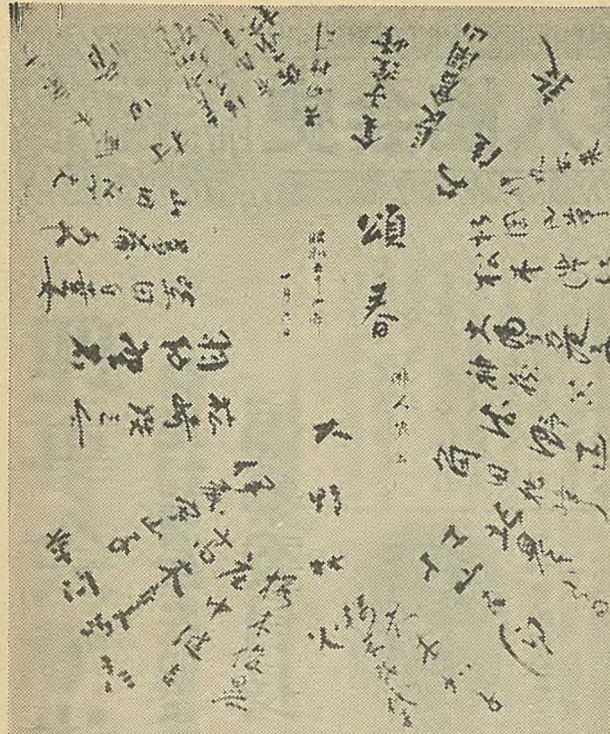
皆吉副会長の発声で乾杯する参加者

俳人協会の会員賀詞交換会は第三回を迎えて、年頭の一月六日(土)午後二時から開催された。当日は春を思わせるようなあたたかい目で、羽子目といいたくようなよく晴れた日だった。

出席者は、約七十名、一明けましておめでたういませうの挨拶を交わしながら、地下ホールに集まった。署名簿の代りに大色紙にサインをした。(写真参照) 会は、宮下事務局長、草間理事長の司会で開会。大野林会長が、今年も皆元気で、和気あいあいとやりたいたの挨拶があり、皆吉副会長の発声で乾杯。あは新春なのでかた苦しいことは抜きにして、と挨拶を省略して自由に談笑をたのしむこととした。

出席者の長老は細木正博、松木俊男、松尾の彌生、森野を過ぎた高齢とは思えない元氣な姿で、飲み、かき語っている姿が印象的だった。

当日の卓上の乾杯は、女流会員の手作り料理で、ご協力下さった方に厚くお礼を申した。



#### 二月集

水 仙 高桑 養生 (京都)  
朝々の水仙に目を澄ましけり  
水仙の香の満つ小さき室もよし  
箸紙にわが名妻の名いつまである

蘭 玉 村上 兼子 (長野)  
蘭玉や嶽覚め刻の雨戸透け  
蘭玉へ火山のあさひとときをり  
雪帽子はづし一歳児の黒瞳

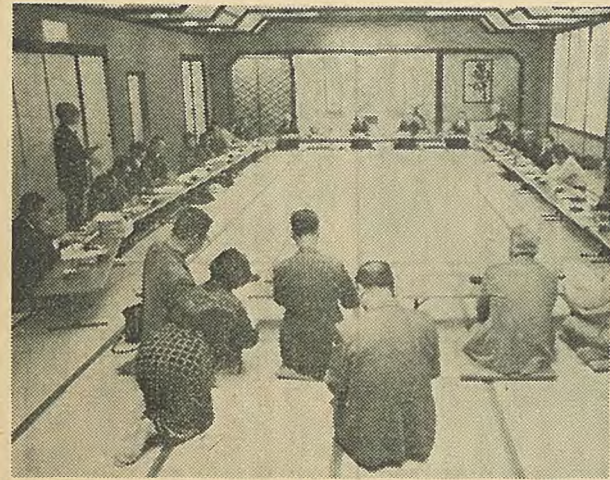
冬 木 辺見 京子 (鹿児島)  
塗椀を湯にくぐらすも四日かな  
冬木伐る身や楠の香に責めらるる  
寒林の夜明けて昨日の木のあらず

金髪を 岡本 無漏子 (和歌山)  
金髪を大地に乱し涅槃変  
鳥はみな地より離れず涅槃変  
凶鑑にも載らぬけものや涅槃像

春立ちぬ 村山 古郷 (東京)  
家しづかなれば犬猫も日向ほこ  
花八ツ手電話よく鳴る日なりけり  
稿紙刷れば枘目枘目に春立ちぬ

なお、阿波野青龍先生から、関西でも是非、賀詞交換会を開くようにとのご要望があり、関西在住の会員諸氏からも同様の希望があるので、関西支部で検討することにした。

### 松の内に懇親俳句会 盛岡で 岩手県俳人協会



盛岡で開かれた懇親俳句会

一月七日、岩手県俳人協会懇親俳句会は、参加者三十余名を得て、盛岡市で開かれた。今年で全盛をむく第三回

目にあたり、協会理事長・草間時彦氏を迎えて、また松の内のおたやかな日和のうちに半開会。俳句会、大島善照、懇親会は戸塚昭知の両司会で行なわれ、昭和五十四年度の行事として、第二回夏季俳句会を東北にて予定、また昨年度に引き続き、会員の合同句集発行、その他を満場一致で可決、こども達先よ、スタートを切った。

岩手県の会員数は現在四十余名を数えるに至ったが、年毎に増加をたどりつづあり、会員の相互の懇親はこうした会を重ねることにより、ますます深まり、その中で俳句の研さんを積むことに喜びを見出している。それは新会員の自己紹介の言葉にもあらわれ見られることであった。

当日の俳句会には、講師草間氏の特選三句と、高松句若干と、それぞれ協会よりの賞品が授与された。終わって短評に立られた草間氏の、目と読む俳句と、耳で聴く俳句の価値の微妙な差異について、当日の句を例にひき、懇切に指導説明され、会員に深い感銘を与えられた。

当日の特選句ならびに主な作品は次の通り。

竹馬の子らがゆきまの妻の里  
七草の一草の香を指に染め  
遭火事や玻璃もくらす妻の想  
笹山の笹に日が跳ね山始  
菅原多を  
桃沢田人  
安田汀四郎  
中村奈果

## 水原秋櫻子全集

講談社版 全二十一巻  
好評発売中  
定価各巻 2,900円

第一巻 句集一☆	第八巻 日記	第十五巻 俳句作法☆
第二巻 句集二☆	第九巻 鑑賞一☆	第十六巻 随筆一
第三巻 句集三☆	第十巻 鑑賞二☆	第十七巻 随筆二
第四巻 句集四☆	第十一巻 鑑賞三	第十八巻 紀行☆
第五巻 句集五	第十二巻 芸術論☆	第十九巻 自伝回想☆
第六巻 俳論☆	第十三巻 自句自解	第二十巻 古典研究一☆
第七巻 作家論	第十四巻 入門・吟行	第二十一巻 古典研究二

(☆印は既刊)

## 角川 日本地名大辞典

ふるさとを愛する人びとに、歴史を旅する人びとに...  
日本の風土と文化を探る人びとに...

豊富な地名—全50万項目に及ぶ画期的項目数!  
引きやすさ—小項目主義による五十音順配列!  
充実した解説—2千名をこえる研究者を総動員!  
広い読者層—家庭・学校・職場に必備の辞典!  
●第1回配本 国東京都 53年12月1日  
発売記念特価 5,800円  
(特価期限 昭和54年12月末日まで)  
1400頁・カラー図616頁本文図版多

角川書店 東京都千代田区富士見2  
振替東京3-195208





俳句カレンシヤリザン 鑑賞

再びの春の時雨の板庇

星野 立子

昭和十一年四月に京都へ旅した... 母の「風流雑誌」のモデルにな... 俳句協会出版の星野立子集の自... 注に、京都・京舞臺とあり同日... の句に

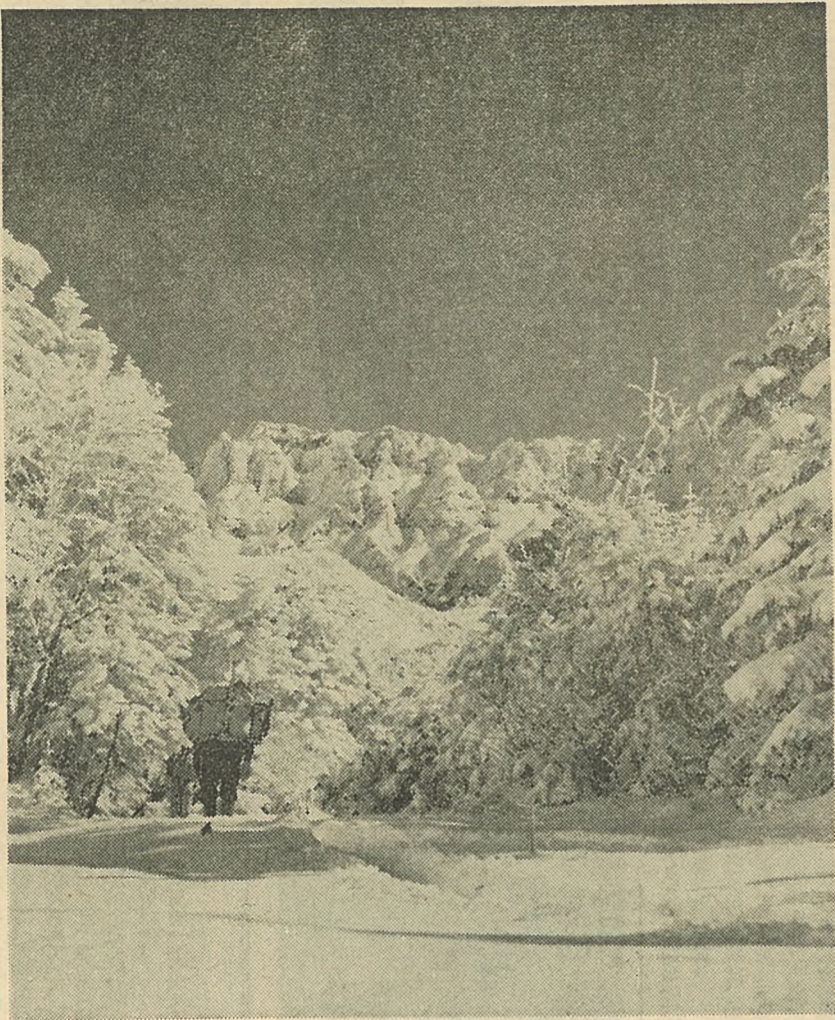
いのお店で、我々海派の者達には... 三女さんはお風呂へ行って... 鎌倉の八幡様の雪洞庵に「道」... 田とよ子さんから電話があった... 伯父さんの使用した杖をお届けし... 頂きましてお返ししたら、

アカザの杖その後

アカザは趣町にも

本誌十百号の編集後記にアカ... ザの杖のことを書いたが、たちま... ち反響があった。最初に市川の会... 田とよ子さんから電話があった... 伯父さんの使用した杖をお届けし... ようかということになった。

樹氷林



新雪を踏んで明けぬろた落... 葉松林をゆく、雫の粟に白... 銀の阿弥陀岳が屹立する。真... 筋を縫って踏跡を辿ると、真... 新らしい現の足跡が無數に入り... 乱れ、石楠花の花芽もふくら... んと春の近づきを感じる。

みなかみ近く凍まった落葉... の葉氷を踏んで「二三三」東... 津を越ると、突然ひらけた... 樹氷林の上に横柄の杖は雪... 壁が目を返して静まりかへ...

季節の窓

直哉旧居 奈良だより が復元



大島民郎氏

大島民郎

初時行をたのしんだようであっ... と「直哉直哉旧居」の前書... ある二句がなっているが、この... して昨年十一月見事に復元され... た。

この「直哉直哉旧居」の前書の... 買取、同大学のセミナーハウ... として昨年十一月見事に復元され... た。

白樺派の香り高いこの旧居は... 俳句の題材としても面白く、新し... い奈良名所のひとつといえるが... 希望者には見学の便を図り、これ... る由である。(ただし毎週木曜日... は閉館)

志賀旧居夫人の居間の冬ごら... り 西田孝子  
闇夜行路書きし書情を冬白寂... し 尾立行子

足立行子



た。時は昭和年の秋でした。秋... 事のための準備もでき、何... か燃えるものはなく、その辺... りを探してみたい。今、この千代... 田区(番町)に日本寺(所在地)... と四番町をなだめている通りは... 側にはアカザが、おびただしく繁... してあります。

追悼

昭和53年 斎藤虹夢(7・22 白桃)  
増岡阿彌(7・31 雨月・年輪)  
大曾根秀美(10・1 天狼・狩)  
堀田晴子(11・17 風花・若菜)  
藤井哲子(11・18 河)  
高田秋仁(11・19 若菜・冬草)  
安田阿彌(11・19 若菜)  
辻岡紀川(12・21 天狼)  
池田若菜(12・25 若菜)  
昭和54年 佐々木桂川(1・3 河)  
林芳生(1・9 狩)

編集室から

▼炊きたてのご飯、味噌汁、玉子焼... 甘徳の鮭、季節の漬... 物。先日、久しぶりに... 和風の朝食を食べた。... 美味かった。お喜びしたら... きて腹が空かなくて困った。... 「カのある朝食」というのもよ... れあしかなければ。それより、あ... とのどが乾いて困った。いつも... のパン食への不満が濃いのであ... たら、パンにベーコンエッグ、... コーヒーという朝食もよいが、春... 夏秋冬、同じで季節感が全く... ない。困ったのだが、せめて食... 卓に季節の花を一輪挿しして構... えている。しかし、その花も寒中... は遠慮を願う。

「大橋敦子集」より 涅槃会の散華みづみづしき楳

春は大地からやってくるか。落の葉や芽摘みに... も通ったことのある道。この道に土橋が残ってい... て、なつかしかった。

「自註現代俳句シリーズ」より抜粋 古寺瓦二月の花文あきらかに

太宰府観世音寺。建立当時の瓦が出土し、春浅い... 透き通るような空気の中にあざやかな蓮華文が浮... いていた。

自註現代俳句シリーズ 第二期四冊(五十首) 安住敦集、井沢正三集、石原舟月集、右城善石集、遠藤穂菜集、小原雪子集、及川貞集、大橋敦子集、岡田日郎集、岡本睦夫集、加倉井秋志集、桂欄琴子集、亀井宗洋集、北野民夫集、小林廣治集、斎藤虹夢集、沢木欣一集、下村梅子集、藤井秀樹集、進藤一孝集、鈴木真砂女集、田村了映集、高木晴子集、龍岡晋集、千代田豊彦集、徳永山冬子集、中山純子集、西村八重集、西本一郎集、能村登四郎集、野見山ひふみ集、古龍山人集、星野立子集、星野表斤集、堀口星眼集、松崎鏡之介集、松村蒼石集、村越化石集、山口波津女集、山田みづえ集 装本、編集料をすべて第一期に準じます。 第一期発売、昭和五十三年七月、以後毎月三冊ずつ刊行 一冊 八八〇円(送料二〇〇円) 全冊十冊一括申し込み三万円(送料共) 一万五千元(二回分割送料をご利用下さい) 東京都新宿区百人町三十一番一〇 申込先 法蘭 俳 人 協 電話 〇三〇二七六六一番 振替 東 京 六一七三番

連句実作に参加しましょう  
第二回 亀戸天神菅公御神忌連句大会  
日時 三月二十五日(日) 一時—七時  
会場 亀戸天神(国電「亀戸」下車)  
会費 二千五百円(当日持参)  
主催 亀戸神社 今泉 宇涯 林 空花  
後援 俳人協会 今泉 準一 東 明雅  
宇咲 冬男 星野 石雀  
高藤 武馬 山地春眠子  
申込みはハガキで下記へ  
東京都中野区若宮2-49-7 杉内 徒司 〒165